

## 第四回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 北村 恭康

日時 令和元年11月16日(土) 10時30分～13時00分

場所 奈良県立万葉文化館

参加者 新宮 済(平城小学校)、坂本亜衣、東尾彩夏、田中隆寛(奈良教育大生)  
井上さやか(万葉文化館)、北村恭康(奈良教育大)

内容

### 1、万葉集の楽しさ

- ・歌の読み手と記録者が別人の場合もある。
- ・万葉仮名は、外国語の漢字の音を借りているが、一字一音と複数音を使用している場合がある。  
梅 ⇒ 烏梅 宇米 青柳 ⇒ 阿乎夜奈義
- ・同じ言葉でも異なる感じの音を当てている場合もある。⇒春日 滓鹿(ともにカスガと読む)

○寒過 暖来良思 朝鳥指 滓鹿能山尔 霞軽引

ハル ナツ 鳥は太陽神の使いという思想からこの字を当てて「ヒ」と読ましている。  
「波流」も春と読む・

四季を表すようになるのは、持統天皇以降である。

○若草乃 新手枕乎 卷始而 夜哉将間 二八十一不在国 憎く

○・・・毎見 恋者雖益 色二山上復有山 人可知美・・・ 出

- ・長歌は平安時代以降急速に少なくなる。
- ・漢字の音を借りて日本人の感情を表しているのが、文化史、歴史の一コマとして取り上げてみるのも楽しい。

### 2、令和と梅花の宴

梅⇒7世紀後半ごろ、中国から伝わった植物で、当時は珍しい花であった。

#### A 梅花の歌三十二首

天平二年正月十三日、萃干帥老之宅、申宴會也、干時、初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香。

#### B 蘭亭序

永和九年、歳在○丑、暮春之初、會于會稽山陰之蘭亭、修禊事也。・・・是日也、天朗氣清、惠風和○

#### C 文選 帰田賦

於是仲春令月、時和氣清

- ・「令和」はAの大友旅人が梅花の歌三十二首 并序の一の部分からとられている。  
令 ⇒ 本来は 良い、好 という意味 和 ⇒ やわらか 穏やかな風景の意
- ・大友旅人は漢書にも通じていた知識人であり、書き出しをBの蘭亭序の形をとったものである。  
Cの文選には「令、和」はある。しかし、先にあったB・Cの中国文献を参考にしながらも、文意の趣旨は違う。

元号(年号)は皇帝が時をも支配するという思想である。その時代のビジョンを表している。漢の武帝の建元元年(紀元前140年)に始まり、瑞祥災禍ごとに改元されてきた。

